

集積データを  
活用しDX支援

MCデータプラス  
顧客ミーティング

MCデータプラス(東京都渋谷区、飯田正生社長)は17日、オンライン形式でのユーザーミーティングを開いた。展開する建設業向けクラウドサービス「建設

サイト・シリーズ」の今後の取り組みなどを説明。集積したデータを活用して、建設DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進につなげるとした。

飯田社長は「集積したデータを元請企業と連携することで建設DXに貢献したい」と表明。労務安全書類作成サービス「グリーンサイト」や作業間連絡調整サービス「ワークサイト」などにより、労務安全書類管理や入退場、作業間連携調整といった分野で生産性向上を後押しする。集積したデータを、各建設会社が差別化戦略に生かす取り組みも支援。精度の高い労務管理や、間接業務の効率化、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の計測などを想定する。

ユーザー企業も取り組みを紹介した。大和ハウス工業の河野宏上席執行役員技術統括本部副本部長は、管理の無人化・省人化を推進し、「(デジタル機器を使いこなす)デジタル職人に管理コストを分配して賃金アップにつなげたい」と語った。清水建設の今井敬建築総本部建築企画室技術企画部部長は、デジタルゼネコンの実現に向けた取り組みを紹介し、「デジタル連

携には個人情報管理などデータリケートな作業が欠かせない。MCデータプラスにデジタル連携の入り口になってほしい」と述べた。

東急建設の石田宏一建築事業本部事業統括部事業推進部長は、ワークサイトの活用に触れ、「2023年度には全現場での利用を目指す」と話した。飛鳥建設の科部元浩企画本部新事業統括部課長は、顔認証システムとの連携による建設キャリアアップシステム(CUS)普及などの取り組みを紹介した。